令和2年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング　発表資料

活動団体名：真庭市役所

活動地域　：**真庭市全域（および都市地域）**

活動におけるテーマ・キャッチコピー

真庭版地域循環共生圏の創造

地域循環共生圏の実現により目指す地域の姿

「エネルギーと食による里地里山里海保全のモデル」を目指す

昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

当初予定していた取組

- **バイオマスの多様な利用**
- **さとやま・さとうみの連携**
  （真庭里海米）

実践の中での気づき

- **バイオマスの多様な利活用**

  ⇒ステークホルダーの組織化ができた

- **さとやまの恵みの具現化（商品化・コンテンツ化）が難しい…**

・広葉樹林（燃料・山菜）
・針葉樹林（用材・燃料 ）
・草原（山焼き・ススキ・サクラソウ）
・田畑（農産物・堆肥・液肥）
・その他（河川・竹林・アカマツ林）

⇒場所と商品つながりが見えない

課題：科学的指標・ストーリーの弱さ

⇒有識者派遣へつながる内容

実際に行った取組

①広葉樹の燃料利用の検討

・利活用先の検討（用材）
・早生樹の検討
・山の管理システムの検討

議論する場ができた

②マイクログリッドの検討

・ＥＶカー及びＥＶステーションの導入
・民間企業との連携による具体的な需給システムの検討が始動

③里海米の取組み（販路拡大）

・多様な主体と販路やブランド構築について協議

事業のタネ３つ

- 真庭里海米の推進
- 里山里海交流促進
- 広葉樹林や草原の有効活用

⇒そもそも・・・
上記事業をトータルに伝えることで、それぞれの取組みを伝えることができる。

⇒今年度の取組へ！

昨年度の支援チーム派遣について

①支援チーム派遣によって解決したかった課題

- **真庭里海米のブランディングおよび他産物の付加価値の源泉となる里山の生物多様性評価に関する専門家の支援**

1．自然環境と商品つながりの見える化

⇒社会・経済・環境的つながり

2．多様なステークホルダーの連携

⇒地域内人材および外部人材との交流

②支援チーム派遣を活用して取り組んだ内容

・里海米の取組み

⇒販売戦略の検討（まずは市民に愛されるものに）

・つながりの見える化

⇒科学的知見を持った専門家のアドバイス

・多様なステークホルダーの連携

⇒状況に応じた適切な有識者の派遣

（計3回毎回異なる布陣で対応いただいた）

③支援チーム派遣の成果

- 有識者のサポートによる持続可能な社会の見える化（文化・商品づくり、人材育成）

1．里山・草原の恵みを伝える

⇒自然再生協議会の設立について助言

2．里海米の取組み（販路拡大）

⇒そもそも売りたいのか?　伝えたいのか？

⇒考え方について助言

3．さまざまな取組をつなぐしくみ

⇒地域の多様な取組をどのように繋げるか？

⇒ファクトとストーリーの構築について助言

④積み残した課題や新たな課題

前提：地域内での取組みは進んでいるが、それを包括するストーリーや外部との連携が不足

- **外部人材とのコミュニケーションの取り方**

  ⇒何を面白いと思ってもらうのか？

- **里海米等の販売戦略の作り方**

  ⇒地域として発信する軸は何か？

- **多様な自然環境を活用した新規事業の創出**

  ⇒どんな価値が創造できるのか？

今年度の取組と到達目標

今年度の取組

- **地域循環共生圏の複数の取り組みを一つのストーリーとして発信する**

  地域の中で取り組まれている地域循環共生圏に係る事業を個別に発信するのではなく、共通の商品群・ストーリーとして発信するためのプラットフォームの構築を図る。そのための市内事業者の連携およびブランドストーリー作りやそのストーリーに基づいた商品群の造成について、本事業により助言をいただき、成果物としてコンセプトブック的なものの作成を目指す。

- **真庭里海米の「価値」を磨いて市民の認知度向上を図る**

  真庭市が推進しているLocal SDGSの取り組みの中の一つとして、真庭里海米の「価値」を明確にし、理解と共感を元に消費者から選ばれるお米を目指す。

- **草原を核とした蒜山地域の観光利用の検討**

  「自然再生基本方針見直し」（令和元年12月閣議決定）において新たな施策として追加されたＳＤＧｓを活用した取組の展開および地域循環共生圏の構築について重点的に取り組みを進め、新たな「自然再生と地域産業の底上げを両立する自然再生協議会の設立を目指す。

今年度の到達目標

- 真庭市で取組む地域循環共生圏に係る事業について、統一感を持った情報発信が可能となり地域循環共生圏のイメージを商品者に的確に届けることが可能となる

  （例：コンセプトブックの作成など、地域の取り組みが共通項で語られているもの）

- 地域循環共生圏に基づいた商品群の造成が可能となる
- 自然再生協議会の設立を契機にさとやまの恵みを活かした観光プログラムが充実させる。

  また、体験観光プログラムの利益で適切に自然環境が保全される仕組みが構築できる。

今年度の年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆協定締結（活動予算執行開始	◆キックオフミーティング		現地意見交換会			◆中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◆		◆成果報告会	
①地域循環共生圏の複数の取り組みを一つのストーリーとして発信				◆キックオフミーティング	◆有識者派遣（1回目）		◆有識者派遣（2回目）			◆有識者派遣（3回目）		
②真庭里海米の「価値」を磨いて市民の認知度向上を図る				市独自事業（里海米プロモーション）								
③草原を核とした蒜山地域の観光利用の検討		農水省自補助事業（農村インポッシブル）		市独自事業（地域ブランディング）								

新規に取り組む団体へ一言！

- 個々の地域の取組みだけでなく、いかにして外部との連携を図りコミュニティを作っていくかが問われている事業だと思います。そういう点で外部有識者の派遣は非常に効果的です。ぜひ地域に関わり続ける外部有識者を見つけてください。

こんなことを助けて欲しい！

- 行政主導だとなかなか事業化まで到達するのが難しいため、企業との連携手法について、もっと助けていただければと思います（マッチングや資金補助等）